

都市緑化フェア・老馬谷ガーデン 報告書

桐蔭横浜大学 生命医工学科 3年 松平瑞紀

◆ はじめに

私がこのプロジェクトに参加したきっかけは、公衆衛生学と環境活動に関心を持っていたことです。大学1年の講義科目で公衆衛生を学びました。私たちが健康に生きていく上で不可欠なことが公衆衛生であることを知り、予防医学的な活動だけではなく、地域社会の健康増進などを組織的に管理する役割があることを学びました。この面白さを知り、飯島先生が桐蔭横浜大学に在職されていた頃、当大学の中庭に広場を作る企画へ参加したことがあります。今回のプロジェクトもこのような思いもあり参加することに思い至りました。



➤ 中央エリア



➤ チューリップの芽

◆ 都市緑化研究会として始動

このプロジェクトでは東京都市大学の学生と一緒に活動することになり、作業をする中で植物や土などの専門知識を教わりながら活動を行ってきました。また NPO 法人ぐるっと緑道のみなさんや地域住民の方と作業する機会もあり地域交流ができ、また意見交換など普段できないことを見聞きすることができました。

活動は学校終了後や休日を使い、週に2回行ってきました。私もできる限り参加をし、3月から開催される全国都市緑化フェア（3/25～6/4）に向けて取り組んできました。参加した日によっては、人手不足や悪天候などで思うように作業が進まなかったこともありましたが良い経験になったと思っています。

◆ 笑顔になるエリアを目指して

全長 200m のガーデンには、緑の時間と空間（歴史街道～生態的緑化）と彩りの時間と空間（未来まちづくり～都市緑化）に分けられています。

それぞれ各個人でその空間に合うエリアを担当することになり、私は見晴らし台と緑地への中心広場を担当することになりました。

ガーデンの中心ということもあり、明るい色の植物を選びました。球根、ネモフィラ、ポーピーの種まきを巻くことになり、地域イベントの際に都築区長さんをはじめ住民の方と行いました。

種まきの際も、夫婦や家族連れでいらっしゃる方が多く、特に子どもたちが楽しく種まきをやっていたことが印象深く残っています。

ガーデンオープンまでに綺麗な花を咲かせて、住民のみなさんに喜んでもらいたいという強い思いがあり、エリアの維持管理もできる限りの手入れを行いました。

エリアを囲むつげの木の発育が思い通りに行かなかったことがありました。そんな中、地域住民の造園家の方からアドバイスを受け、植え替えや水やりを徹底的に行いました。

ガーデンオープンではみなさんの笑顔が見えたと思われます。

◆ 最後に

このプロジェクトは全国都市緑化フェアがゴールではなく、この先、老馬谷ガーデンに残るガーデンを目的として活動してきたこともあります。課題の解決や維持管理も必要になってくるため、これからも携わっていきたいと思っています。



➤ 中央エリアのポーピー